

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	気賀, 健三
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.1 (1954. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540101-0109">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540101-0109</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- \* レーニン傳 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所 内村有三譯(國民文庫) A 6 二三六頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* 社會思想史入門 井伊女太郎著(要選書) B 6 一八四頁 一七〇圓 要書房
- \* スターリン全集 13 スターリン全集刊行會譯 B 6 四五〇頁 四八〇圓 大月書店
- \* 社會主義社會思想發展の歴史的背景 糸會義夫著 B 6 二八八頁 三〇〇圓 筑摩書房
- \* レーニン・スターリン革命的議會主義 山邊健太郎編 B 6 二〇三頁 一八〇圓 社會書房
- \* 資本主義・民主主義・共產主義 北澤新次郎著(早稻田選書) B 6 一七七頁 一六〇圓 早稻田大學出版部
- \* 農業問題と「マルクス批判家」 レーニン著 谷村謙作譯 A 6 二五四頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* ソ同盟共産黨第十九回大會一般報告 マレンコフ著 本間七郎譯 A 5 一二四頁 五〇圓 國民文庫社
- \* 中國共産黨の三十年 胡喬木著 尾崎庄太郎譯(國民文庫) A 6 一三六頁 六〇圓 國民文庫社
- \* 史的唯物論——新科學の基礎—— 山田坂仁著 B 6 一七二頁 一三〇圓 新科學社
- \* 共產主義の系譜(増訂版) 猪木正道著(角川文庫) A 6 三〇一頁 一〇〇圓 角川書店
- \* レーニン・スターリン社會主義經濟建設論(下) 中共幹部必讀文獻編集委員會編 石堂清倫譯 B 6 六三四頁 六〇圓 五月書房
- \* 中國革命論 スターリン著 平澤三郎・松本滋譯(國民文庫) A 6 二四六頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* 日本資本主義論争史(上) 小山弘健編(青木文庫) A 6

年鑑・辭書・資料

- \* 日本經濟年報(77)昭和28年度第1集 東洋經濟新報社編 B 6 三一八頁 二三〇圓 東洋經濟新報社
- \* 中國經濟年報(1)一九五二年一月—十二月 中國研究所編 B 6 二四四頁 二〇〇圓 大月書店
- \* 日本經濟年報(78)昭和28年・2 東洋經濟新報社編 B 6 三一八頁 二三〇圓 東洋經濟新報社
- \* 世界經濟年報 一九五二年第四・四半期 世界經濟研究所編 B 6 三〇八頁 二〇〇圓 大月書店
- \* 日本經濟年鑑 昭和二十八年版 日本經濟新聞社編 B 5 六五八頁 一二〇〇圓 日本經濟新聞社
- \* 日本經濟年報 昭和二十八年第三集 東洋經濟新報社 B 6 日本經濟四季報 一九五二—五三年三月特集 日本經濟調查會編 B 6 三七一頁 二五〇圓 大月書店
- \* 中國經濟年報 二 B 6 二五四頁 二〇〇圓 大月書店
- \* 世界經濟年報 一九五三年第一・四半期一—三月 世界經濟研究所編 B 6 二七九頁 二五〇圓 大月書店

青木書店

編輯後記

わが國が國家社會の一員として復歸するようになってから、經濟學界においても歐米の諸學者とわが國の經濟學者との間の交流が次第に盛んになつてきたようである。この傾向は戰爭前の時代よりも一層著しく、今後においてはさらに發展をみるであらうと期待される。しかるにわが國の各種の經濟學研究機關が發行している研究雜誌には國際的な交流の便宜が決して十分でなく、雜誌に掲載される幾多の尊重すべき論説が他國の學者の眼に觸れることなまに放置されるものが多いことは、まことに残念である。日本語の非國際性が交流を妨げる大きな理由になつてゐることは、容易に推察されるところであるが、しかしわれわれとしてもこの障害を乗り越えて國際的交流に努める熱意に缺けるものがあるしなないであらうか。

由來、わが國の經濟學研究は他の社會科學部門におけると同様に主として歐米諸國の學說の輸入紹介を基礎にして發達してきたものであるが、現在においては、すでに攝取すべきものを攝取し、排すべきものを排するほどの素養と能力とを相當に備へてゐるものと考へられる。したがつて、今後わが國の研究の多くが外國の多數の學者の眼に觸れ、相互に刺戟と新知識を頒ちあふることができるようになり、國際的な貢獻を意味するであらう。長い傳統を有する本誌に、このような國際的價值を帯びさせることは、私の大きな希望である。

(氣賀健三)

昭和二十八年十二月二十五日印刷  
昭和二十九年一月一日發行

第四十七卷 定價 七〇圓  
第一號 送料 八圓

東京都港區芝三田慶大經濟學部内  
編輯者 氣賀健三  
發行所 圖書印刷株式會社  
印刷所 川口芳太郎

預約購讀料  
一年分 金八四〇圓(送料共)  
半ヶ年分 金四二〇圓(〃)

發行所 東京都港區芝三田二丁目  
慶應義塾大學經濟學部研究室内  
慶應義塾經濟學會